

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270100617		
法人名	医療法人社団 回春会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 悠々の家		
所在地	島根県松江市川原町308		
自己評価作成日	平成25年2月9日	評価結果市町村受理日	平成25年7月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9-16		
訪問調査日	平成25年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「利用者の尊厳の保持」を常に念頭に置き、生活の流れもあくまでも利用者本位で個別ケアが生かされたサービス提供に努めている。また家庭的な雰囲気大切にしている。隣接している介護老人保健施設・小規模多機能施設と共に、毎月の行事や季節の行事・地域の慣習を取り入れた行事を行い、地域・家族との交流を図り社会性を高め楽しみのある生活を目指している。法人としてISOに取り組みサービスの質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から年数を重ねており、地域の中でも福祉の中心施設として、実習生や研修生の受け入れ、子供から大人まで、幅広い年代との交流の場として、地域への貢献度も高い。災害時の対応として、今後ますます地域との連携作りが必要と思えるが、より地域の方に役立つような啓発活動等に力を入れることで、築いていっていただきたい。理事長を中心とし、理念を追求したより良い介護のため、各所で目標を掲げ、その達成のために、記録の記入方法の工夫など、ちょっとした気づきを感じられるような取り組みが新鮮に感じられた。窓から景色は年中季節が感じられるようになっているが、施設の各所にはいつも、さり気なくきれいに花が入れられており、職員の細かい心使いが心地よかった。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関・サービスステーション内の目に付きやすい場所に掲示している。また朝礼・スタッフ会等で理事長はじめ幹部職員より尊厳の保持・その人らしい生活についての話があり、日々意識統一を図っている。	理念については朝礼等で日々取り上げ、職員間で共有できるように連絡ノートも活用している。また理念にそった目標も掲げ、今年度はヒヤリハットの気づきから、ケアを見直すことに重点を置き取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事・クラブ活動は隣接の老健や小規模多機能の利用者と一緒の行い顔なじみになっている。その際には地域の方やボランティアとも交流している。また実習生や研修生も受け入れている。	福祉職員の養成の場所として、研修生等の受け入れを積極的に行っている。また保育所や小中学生、ボランティアなどとも幅広く交流の機会も持ち、地域とのつながりに力を入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学・入居希望の相談に対応することで地域との関わりをもっている。また当施設の対象でない状態になられた際にも困られないよう相談にのっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老健・小規模多機能とも合同で開催している(松江市・地域の民生委員・家族等参加)施設の近況(利用状況・行事・生活の状況等)事故・クレームについて・災害避難訓練等について報告し、意見交換・要望をきいている。	2か月に1階の開催にはなっていないが、地区の代表者、行政の代表者に隣接の施設の職員、家族の代表者の参加もあり開催されている。施設の現状への理解を得る場として、行事の紹介や意見交換が中心になっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険のサービスに関する問い合わせを必要時行っている。介護相談員の受け入れを行いサービスの向上に努めている。包括支援センターとは利用状況の問い合わせや、退居された場合の新規利用の相談等を行っている。	運営推進委員会にも毎回の参加があり、施設の現状にも理解がある。利用者の退所時には新規の利用者の問い合わせを行ったり、いい関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設・事業所と合同でリスクマネジメント委員会を設置し、身体拘束防止に努めている。毎年施設内研修を行うほか、朝礼での話やヒヤリ・ハットをあげることで周知徹底を図ったり職員の意識を高めている。	身体拘束をしないケアを実践。意識しないうちに言葉等での拘束にならないように、ヒヤリハットや連絡ノートを利用し注意をするようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、リスクマネジメント委員会を設置し、研修を行うことで防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用していらっしゃる方がいる。その方のケースより制度について学んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時等には重要事項説明書・契約書の内容について丁寧な説明を行うと共に、不明点や疑問点についても説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱ならびに窓口を設けている。その他面会時・ケアプランの見直し時・事故等あった時や体調に変化があった時など都度連絡を取り意見を聞いている。またご利用者から日々の生活している中でわずかなことでも希望・要望を聞き改善に努めている。	担当が毎月お便りを書き送っており、家族の方々の意見を聞く機会としている。面会のある方には声がけをしたり、遠方の家族には電話で聞くようしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回開催されるスタッフ会で議題を提出し協議している。またその都度相談して解決に努めている。	夜勤明けの朝、理事長が1対1で業務報告を受けており、その機会を職員の生の声を聞く場としても活用している。仕事だけでなく家庭、メンタル面も含めて話をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキル評価表・介護技術チェック表・提出レポート等より勤務状況を把握している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修は新人研修やその他都度実施している。外部研修についても当グループホームに相応しい内容のものについては参加させている。OJTによる指導を行い職員のスキルアップを図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はグループホーム部会には参加していないが、後日資料をもらい参考になっている。研修時には他施設との情報交換を行い情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっては病院・自宅や利用している介護サービス事業所等に出向き、担当者・ケアマネ・本人より現在の状況及び不安に思う事・心配な事等事前に情報を得て対応している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際し、病院・自宅・介護サービス事業所等に出向き、担当者・ケアマネ・ご家族・御本人より状況を聞き、心配される事・不安に思われる事についてお話するとともにこちらでの状況も伝え、少しでも不安・心配が解消するよういっしょに考えるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの情報・関係部署（以前関わっていた事業所等）や医師からの医療情報を検討し利用が適切かどうか判定する。適切でないと判断された場合には適切なサービスが受けられるよう関係部署に伝える。医療機関である場合には同法人の施設があることも伝える。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	リビングパートナーという意識をもち、入居者の能力（できること・出来そうなこと）を引き出す様に努めている。また利用者の希望する事にも注目し可能となるよう一緒に取り組む。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度、生活環境・生活歴について家族・親族から伺い共に支援するという関係が築けるように努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊の機会が多くなるよう働きかけている。外出については外出行事にも多くの方が参加できるよう声を掛けている。友達や知り合いの方の面会・家族のかたの面会についても自室で話ができやすいよう配慮している。家族の面会が少ない方には電話で面会をお願いする方もある。	昔よく行っていた懐かしい場所など、遠出をする外出行事は法人全体で計画され行われている。普段は隣の老健へ友人に会いに出かけることを楽しみにしたり、サークル活動での交友関係も広がりつつある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の程度や障害もそれぞれであるが、1人の利用者が避難されたり孤独にならないよう間に入り、良い点は伝え皆で支えあって生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気等で入院された場合には、病院のMSWや居宅支援事業所・施設相談員と連携を図り困られることがないよう支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前・ケアプラン見直し時に、御本人・家族から望まれる生活・意向を伺いそれに添うようにつとめている。	どのような生活をしておられたか、何ができるのかなどできるだけ聞いて、機能的にできそうなことや自発的に参加されることを、プランに入れるようにしている。	利用者が主体的に動けるような声かけ、対応を今一度検討いただきたい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族・御本人・居宅支援事業所のケアマネより情報得て、調書に記載。情報を共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報・カルテ・連絡帳・ミーティング記録より情報収集してから勤務に就く。また皆に伝えておかないといけない事・気付いたことは同様に記録に残し情報の共有化を図っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の生活については多くの情報を収集し細かくアセスメントするようにしている。それをケアプランに反映させている。日々のケアや見直し時にも担当者を中心に意見や考えを話し合いケアプランを見直している。	3か月に1回はモニタリングの機会を持ち、皆で意見を出し合い、プランの見直しに繋がっている。日々の記録も形式にこだわらず、気づきを中心にしており、細かい意見が出やすくなるようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ・ミーティング記録に日々の状況・気付いた事(機能面・精神面等)を記載し情報の共有化を図っている。それをケアの見直し・ケアプランの見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師が勤務しており医療面では医師と連携を図っている。また必要時には隣接する老健の管理栄養士・訓練士等に相談することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には地区の民生委員さんにも参加してもらっており、いろいろ参考になる意見を頂いている。また防災訓練では老健と共に消防署の指導・助言を受けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的な往診がある。また体調不良や怪我をされた場合には看護師が中心となり家族・かかりつけ医と連絡をとり、適切な医療がうけられるような体制を問っている。	2週間に1回のペースで協力医の往診があり、夜間や緊急時にも指示をもらったり、急な往診も可能な体制ができている。精神科の受診が必要な方には、職員が付添い日頃の様子を的確に伝え、指示をもらっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、体調の変化・気付いたこと等については都度相談をして対応している。そこからかかりつけ医への連絡・相談を行い適切な医療が受けられるよう支援している。また医師からの指示は都度介護職員に伝えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合には、施設での状況を文書で病院看護師に伝える。またMSWにも状況を伝え連携を図っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り・緩和ケアのマニュアルは作成している。そのような状況になられた時には家族ともよく話し合い意向を聞く。かかりつけ医・管理者ともいっしょによく話し合い方針を決める。	入所時にも対応について説明しているが、必要時に話し合いの機会を持ち、法人全体で対応することとしている。常時医療を必要とする場合も概ね対応が可能なことから、グループホームで終末を迎えることは少ないが、家族の方々は喜ばれている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署による救急救命講習を受講。朝礼などで報告される他部署で発生したことも自施設の事として振り返る。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火・避難訓練を行っている。(昼間の想定・夜間の想定)職員は全員参加し意識を高めている。また併設施設とも連携を図れるよう計画している。	定期的な訓練は実施している。昨年9月に昼間を想定して、今度3月には夜間を想定した訓練が計画されている。新しい職員は業者から防災機器の説明を受けたり、火災事例を取り上げたり防災意識を高めている。	定期的なものだけでなく、規模の小さい訓練を日常化することで、災害対策をより充実したものになるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアル作成し対応している。毎年研修を行い職員の意識を高めている。介護マニュアルそれぞれにもプライバシー保護について記載されている。	個人情報と入浴時や排泄時のケアの場でのものを分け、それぞれマニュアルを作成して、読み合わせをしたり、研修を実施し取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活全般において、職員からの押し付けにならないよう意志確認をしながら介護を行っている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決めず起床・就寝時間・毎日のアクティビティなどはあくまでも御本人の意志を尊重して行なっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の洋服は自分で選んでもらうようにしている。お化粧品をしたい方にはしてもらっている。髪のカットも御本人の好みにしてもらっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備・盛り付け・食器の片付け・食器拭き等できる事はしてもらっている。干し柿作りは柿の皮剥きを行ってもらった。悠々園で行っている喫茶・バイキング・誕生会はとても楽しみにしている。	台所に入り包丁を使い下準備を手伝ったり、盛り付けたり、テーブル拭きや食器を拭いたり、個々の能力をいかせるようにしている。職員が利用者の中に入り話をしながら食事を摂っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量については、おかずを残される方については少しでも食べられるよう声掛けをしている。水分は好み飲み物で出来るだけ多く摂取できるよう働きかけている。体重測定を月1回行い増減に注意している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前・食後に口腔ケアをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を使用し、一人一人の排泄パターンを把握している。それによりそれぞれの間隔をみながらトイレ誘導している。	排泄時声かけが必要な方にはさり気なく行い、自分で行かれる方にも気を付けている。新しい利用者は細かく観察することで早くパターンを把握するようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘の方には水分は多めに摂取してもらうよう働きかけている。冷たいお茶を勧めたり腹部マッサージや運動も行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中いつでも入浴できるようにしている。急がせることなくゆっくりと入浴してもらうようにしている。	同性介助を基本としている。個々のペースに合わせてできるだけゆっくり入れるようしている。シャンプーやソープなど好みの物を使い香を楽しむ方もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や習慣やその日の体調などにより午睡・就寝・起床できるよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関することはカルテに記載し、目的・副作用等わかるようにしている。薬は職員が管理しているが飲み込まれるまで確認をおこなっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望のクラブ活動に参加してもらっている。日々のアクティビティも本人の好まれる事・趣味を勘案して勧めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望・体調により散歩を行っている。外出行事は行きたい場所に出かけてもらっている。地域の行事に参加することもある。	天気を見ながらできるだけ外に出かける機会を持つようになっている。寒くても毎日散歩に出かける方もあり、時間は短くても気軽に出かけるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行わないが、外出行事等で買い物をしたい方については立て替え金として所持し買い物をしてもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話をかけたり、手紙を書いたりできるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清掃を行い清潔を保っている。季節の花を活けたり、季節に相応しい貼り絵を行い飾ったり、屋外の見える所には花を植えたプランターを置いている。それらにより季節を感じてもらえるよう配慮している。	どこにいても外の自然な風景を見ることができる。壁にも季節を感じるような作品が飾ってある。天井が高く広くて開放的は造りで、落ち着いた雰囲気がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファを置き、テレビを見たりちょっと横になったりしやすい空間になっている。庭に面したコーナーは椅子を置いて田畑を眺めたり、鳥や犬・猫を観察する場になっている。また台所も気軽に入ってこられ、手伝いばかりでなくいろいろ話される場になっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの物や今まで使用していたものを持ってきていただきたいとお願いしている。使用していた鏡・カラーボックス・小さな仏壇・犬の写真・家族の写真などいろいろ持参されている。	家で使っていた物を持ってきてもらい飾ってもらうようお願いしている。テーブルやイスでお茶する人や自分の作った物を飾る人もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室のプレートの下に表札がある。トイレ・浴室などは都度職員が案内を行っている。		